

ぬくもりはつとればーと①

発達障害と特別支援教育

今年度から研修を長期休業させて頂き、大学院の臨床心理学部で最終学年を迎えています。今回は、臨床心理学の最近の話題の中から、「発達障害と特別支援教育」についてのレポートをお届けします。

平成十七年に施行された「発達障害者支援法」に基づき、全国の小・中学校で特別支援教育の取り組みが始まりました。発達障害の中でも知的障害がない、主に、広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー症候群)・注意欠陥/多動性障害・学習障害の子どもたちに対し、よりよい学校生活を送れるように必要なサポートを提供しようという取り組みです。

平成十四年の文科省の全国調査で「知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を示す」と担任教師が回答した児童生徒の割合は、通常学級で六・二%でした。三十人学級であれば、どのクラスにも一〜二人はいることになりまます。この数字を受けて、発達障害が決して珍し

いケースではないことが確認され、全国規模での取り組みがなされるようになりまます。

発達障害は能力や技術の獲得に偏りや遅れがある状態で、決してわがままや、親のしつけが悪いわけではありまません。しかし、見た目には障害があるとわかりにくいため、落ち着きのない子、空気の読めない子、こだわりの強い子などと思われ、学級の中で困った子としての扱いを受けてまます。

近年これらの障害では、脳のコントロールタワーの役割を担っている前頭葉の機能が低いことがわかってまます。

普段私たちが、目の前の相手の話に集中できるのは、同時に入ってくる様々な刺激(相手の声、外の音、目に映る風景等)の中から、必要な刺激だけを選別し、邪魔な刺激は取り入れないよう、このコントロールタワーが働いているお陰です。こゝが働かないと、先生の声も、外の車の音も、教室の掲示物も、同等に無差

別に取り入れられてまます。先生が大事な話をしてる最中に、窓の外を横切った蝶に目を奪われ、突然教室を飛び出して追いかけてまます。

成長と共に、脳の機能が成熟し、これらの特徴のいくつかは軽減されまます。4年生くらいになると、歩き回ると、歩いている子はほとんどいなくなまます。

人によって見え方が違う

見え方の違いを大切にそこから相手を理解しよう

くつかは軽減されまます。4年生くらいになると、歩き回ると、歩いている子はほとんどいなくなまます。しかし、それまでのゆつくりした成長に理解のない周囲から、不用意な言葉や浴びせられたり、不毛な努力を強いられまます。

ますか？
すぐにわかる方も、そうでない方もいると思いまます。わからない方が、「ちゃんと見なさい」「何で見えないの」「頑張れば見えるよ」と言われても、それで見えるようにはなまます。

そんな時に「これはカタカナだよ」、「こゝに補助線を引くとどうかな」、「白い部分を見てこらん」と言ってもらえると、ほら、見えまましたか？(ゴゴゴ)

発達障害の子どもたちはこのような混乱に、日常生活のあらゆる場面で遭遇してまます。一体こゝの子には、世界がどのように見えてるのだろう。それを理解し、その子に必要なやり方を提供していくのが特別支援教育です。

ある学校のカウンセリング室に、常連のA君がいままました。A君は「嫌いな授業だから」という理由で退室し、一方的に喋り、友達が自分分を笑つたと怒り、激怒し、雷の音を聞くまます。



て動けなくなりまました。担任の先生は、これらのA君の特徴が、アスペルガー障害の特徴でもあることを知り、理解しようとして努力されまました。初めはA君のわがままに思え納得いかな様子でしたが、カウンセリング室を訪れるたびに、彼の世界を理解しようと様々なエピソードを話していかれました。

変化に適應することが苦手なA君は、午後の授業の予定が変更になつたからといって、臨機応変に予定外のことのできまません。彼にすれば何のためらいもなく予定を変えてしまふクラスメートのやることの方が信じられないことなです。教室で起こつてることが彼の理解を超えてしまふと、カウンセリング室に来て、歩きまわつたり、話をして、やがて落ち着くと、自分から教室に帰つていまました。こんなA君の様子を、私たちは彼なりの適應の仕方と理解し、担任の先生も、A君がパニックになると「カウンセリング室にいかうか？」と声をかけて下さいまました。そのうち、「少し座つて休もうか？」に変わり、事前に



予定表を用意されたり、A君の様子を見たり、様々な

工夫をされまました。いつの間にか、A君はカウンセリング室の常連ではなくなりまました。相変わらず、大きな音には顔をしかめ、自分のことを一方的に話すこともありまます。しかし、A君は教室で、彼の在り方を許容してくれる先生に出会い、パニックを起こすことがいつの間にか減りました。先生の彼に対する態度は、周囲の生徒にも、彼は彼でいいということを自然に伝えたのだろうと私は感じまました。

同じ世界にいて、同じように見えているつもりでも、人によって見え方は違いまます。見え方の違いは、その人ら大切にし、そこから相手を理解しようとするこゝは、ありのままの相手を大切にすることでもありまます。それは日常の人間関係でも大切なことだと、傾聴を学ぶ私たちも知つてるのではないでしようか。(KY)